

東北地方 1か月予報

(7月13日から8月12日までの天候見通し)

平成14年7月12日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとあります。

太平洋高気圧に覆われ、晴れる時期もありますが、梅雨前線やオホーツク海高気圧の影響を受けやすく、平年より曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年より多い、日照時間は平年並か少ない見込みです。

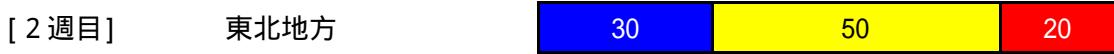
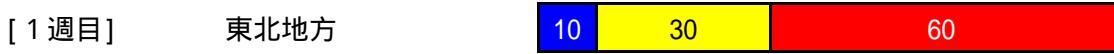
週別の気温は、1週目は高い、2週目は平年並、3～4週目は平年並か低い見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



低い(少ない) 平年並 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



低い 平年並 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 7月13日(土)～8月12日(月)

1週目 : 7月13日(土)～7月19日(金)

2週目 : 7月20日(土)～7月26日(金)

3～4週目 : 7月27日(土)～8月9日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日14時30分 次回は7月19日

3か月予報：7月22日(月)14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温, 降水量, 日照時間と1週目, 2週目, 3~4週目の平均気温)

	気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温(℃)		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	22.4	153.3	165.0	20.8	22.0	23.3
新庄	23.6	170.4	177.0	22.0	23.4	24.4
若松	24.6	143.5	194.3	23.2	24.4	25.3
深浦	22.7	144.5	189.8	21.1	22.5	23.5
青森	22.6	108.5	190.4	20.9	22.2	23.5
むつ	21.1	114.0	161.6	19.4	20.7	22.1
八戸	21.8	108.6	180.3	19.9	21.4	22.8
秋田	24.1	162.7	191.8	22.5	23.9	24.9
盛岡	23.0	163.0	159.4	21.5	22.8	23.8
宮古	21.5	132.6	164.9	19.7	21.1	22.4
酒田	24.5	165.0	207.8	22.9	24.3	25.3
山形	24.5	139.2	178.4	22.9	24.3	25.3
仙台	23.5	150.1	149.6	21.8	23.1	24.4
石巻	22.8	113.9	169.7	21.1	22.4	23.6
福島	24.9	136.7	155.2	23.2	24.6	25.7
白河	23.1	183.0	151.1	21.8	22.9	23.7
小名浜	23.0	113.4	181.7	21.6	22.6	23.6

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(℃)	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.6~+0.7	75~117	90~112
東北日本海側	-0.6~+0.6	78~116	92~112
東北太平洋側	-0.5~+0.9	76~117	91~115

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.9~+0.9	-0.6~+1.1	-0.4~+1.0
東北日本海側	-0.8~+0.8	-0.6~+1.0	-0.7~+0.8
東北太平洋側	-0.9~+1.1	-0.7~+1.3	-0.3~+0.9

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成14年7月12日 仙台管区気象台

1. 可能性の大きな天候の特徴

向こう1か月(7月13日~8月12日) :

太平洋高気圧に覆われ、晴れる時期もありますが、梅雨前線やオホーツク海高気圧の影響を受けやすく、平年より曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

1週目(7月13日~7月19日) :

明日(13日)は高気圧に覆われて晴れます、明後日(14日)以降は、梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の降る日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

2週目(7月20日~7月26日) :

天気はおおむね周期的に変わり、太平洋高気圧に覆われ晴れる日もありますが、梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日もあるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3~4週目(7月27日~8月9日) :

太平洋高気圧に覆われ晴れる日もありますが、オホーツク海高気圧の影響で、平年より天気のぐずつく日が多いでしょう。

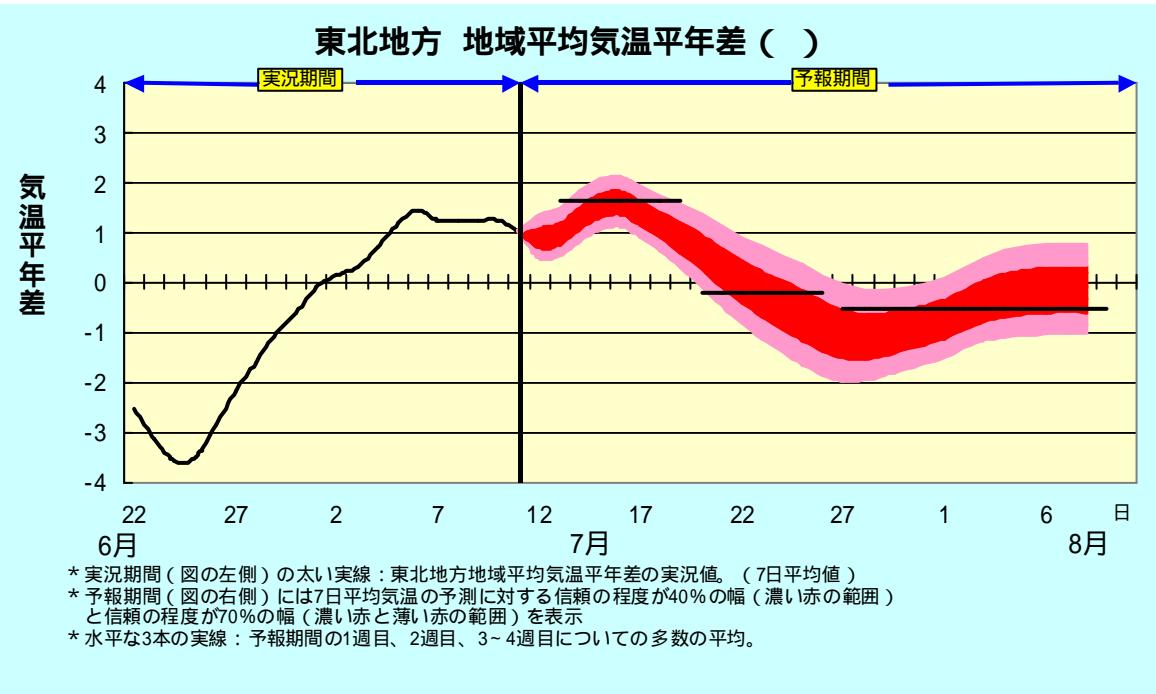
平均気温は平年並か低いでしょう。

平年の晴れ日数

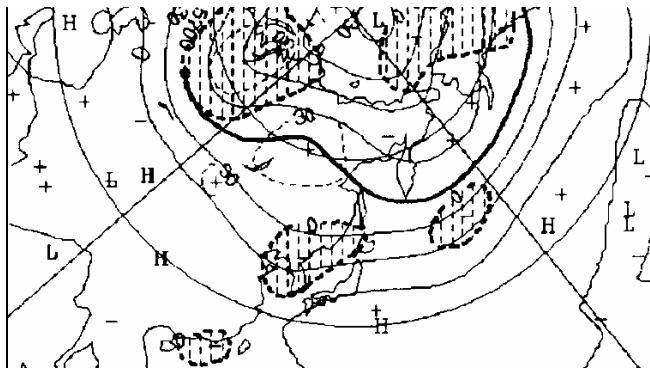
	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	15.2日	2.9日	4.1日	8.2日
東北太平洋側	13.5日	2.5日	3.4日	7.6日

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目は「高い」、2週目は「平年並」、3~4週目は「低い」を予測している。予報は、その他の資料から3~4週目を「平年並か低い」とする他は数値予報どおりとする。なお、数値予報の信頼度は大きい。



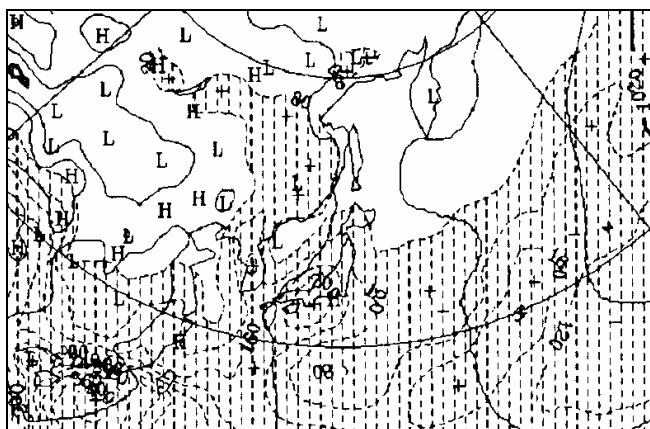
3. 循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



500hPa高度・偏差

月平均で見ると、沿海州から朝鮮半島付近に負偏差域がみられるが、それ以外の極東域はほぼ正偏差域で、東北地方は南西から湿った空気が流入しやすい循環場となる。

このような循環場は、週別（図略）では、特に1週目に顕著。2週目以降は、太平洋高気圧が日本の南海上から、しだいに北西方向へ勢力を強め、沿海州から朝鮮半島付近の負偏差域は解消する予想。



地上気圧と降水量

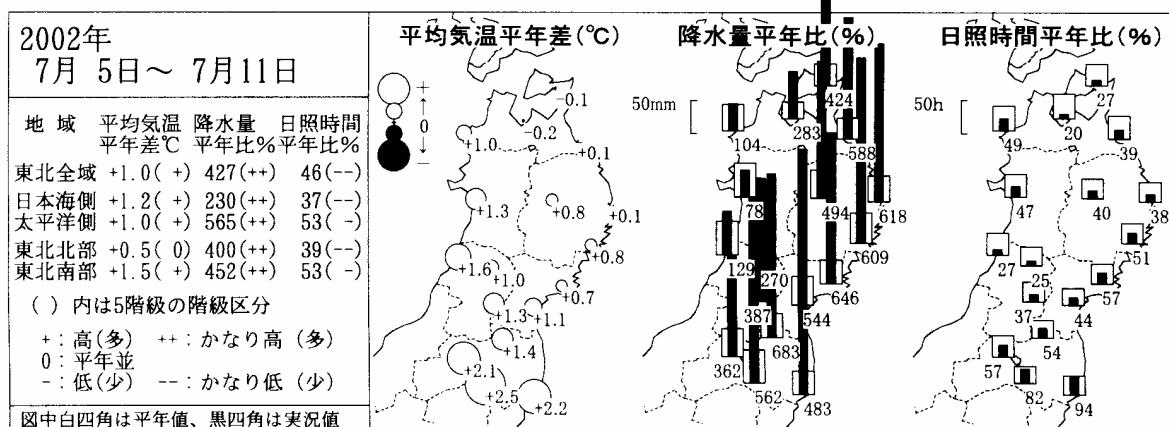
月平均で見ると、日本の東海上から東北地方にかけて弱いながら、梅雨前線に対応する低圧部がみられ、まとまった降水域は広く日本付近を覆う予想。

週別（図略）では、東北地方にかかる降水域は、特に1週目に顕著。2週目以降、日本付近の地上気圧は上昇傾向となり、3～4週目にはオホーツク海高気圧が予想されている。

4. 最近1週間（7月5日～7月11日）の天候の経過

この期間、梅雨前線や南海上から北上した台風の影響で曇りや雨の日が多くなった。特に、10日から11日にかけては活発化した梅雨前線と台風第6号の接近・通過で大荒れとなり、東北太平洋側では7月として記録的な降水量となって、山・かけ崩れや浸水害、交通障害などの大きな被害が発生した。

平均気温は、東北北部で平年差+0.5と平年並、東北南部で平年差+1.5と高かった。降水量は、東北地方で平年比427%とかなり多かった。日照時間は、東北日本海側で平年比37%とかなり少なく、東北太平洋側で平年比53%と少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）